

第6章 実践者からの報告

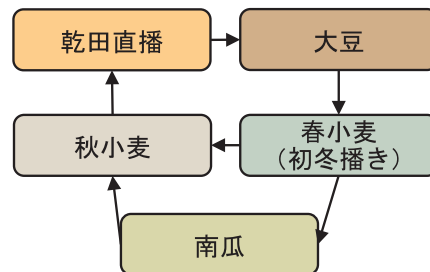


JAいわみざわ水稲直まき研究会
会 長
濱本 壮男

経営概要

作付品目	面積 (ha)
乾 田 直 播	6.6
秋 小 麦	7.5
春 小 麦	3.5
大 豆	5.6
南 瓜	6.2

輪作パターン



移植水稲を辞めすべて乾田直播に移行しました。

大きく3つの利点があると考えています。

- ① 輪作に取り組む中で、所得を上げるためには小麦の収量をしっかり上げることが重要と考えております。水稲直播を挟んだ空知型輪作は、小麦の減収要因である立枯病、眼紋病等の病害を確実に抑えることができます。また乾田直播は土を練る事が無いので畑作物との輪作も容易になります。
- ② 田植えを辞めたことで春の作業競合が減少し、南瓜を早期に作付することで比較的安定した価格で出荷する事ができるようになりました。
- ③ 直播水稲自体も新規需要米等の制度を活用すれば10a当たりの所得を十分確保でき、全体で見ても安定した所得を上げることができるようになって考えています。(17p)

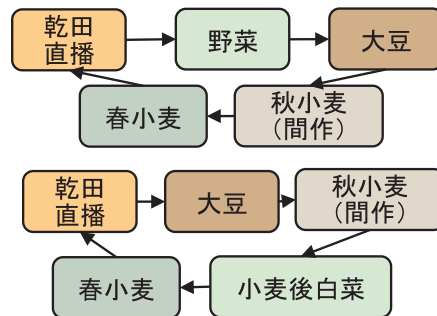


JA いわみざわ水稲直播研究会
副会長
金田 佳記

経営概要

作付品目	面積 (ha)
乾 田 直 播	9.4
秋 小 麦	5.0
春 小 麦	1.6
大 豆	1.1
野菜(小麦後含む)	1.3

輪作パターン



水稲直播を始めて12年になりますが、初めは湛水直播でのスタートでした。

当時の記憶を辿ると何もわからない手探りで本当にこの技術が確立できるのか、毎日ドキドキでした。芽がなかなか出なかった年は、中道さん(JA担当者)と齊藤さん(普及センター)が毎日見に来てました。(笑)

10年ちょっとの間で直播栽培技術も確立し、現在では全て直播です。春の労働時間の削減により、他作物の管理に目が行き届き、また輪作体系が組みやすくなりました。キャベツや、白菜のアブラナ科はなるべく連作を避けなければならないのでほ場を回すにはもってこいです。また、ここJAいわみざわでも、農地の拡大が必須となり労働力不足が問題となっていますので解決方法の1つとして取組んで頂きたいと考えます。

直播栽培技術は、難しくはありません。ただ、いきなり大面積を実施するのは、リスクが伴いますので田んぼ1枚からでも挑戦して欲しいです！まず感覚をつかみましょう。サポートは研究会でしっかりやりますよ！

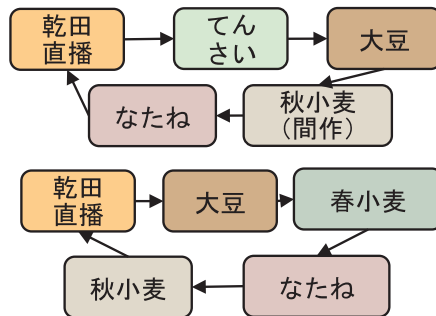


JA いわみざわ水稲直まき研究会
副会長
村木 功

経営概要

作作品目	面積 (ha)
移植水稲	14.5
乾田直播	7.2
秋小麦	5.0
春小麦	2.3
大豆	8.0
なたね	2.5
てんさい	1.2

輪作パターン



今年で直播を始めて11年目に入りました。

直播栽培は、秋小麦の縞萎縮病の発生と小麦・大豆の交互作に限界を感じたことから、田畑輪換を目的に導入しました。

1、2年目頃はヒエに大変苦労しました。収穫時にヒエだらけだったり、発芽前処理でラウンドアップを散布後からまたヒエが出てきたり…。また、幼穂形成期後の追肥で稲が全面倒伏させたこともあり、除草や追肥のタイミングの難しさを知りました。

それらの失敗や経験もあり、今では「追肥の適期散布」や「土壌処理からの湛水一発剤処理の除草剤体系の確立」がなされ非常に作付けしやすくなったと思います。

また、水稲直播を入れた輪作導入後は、雑草密度の低下・病害虫発生の低減などで小麦や大豆の収量が地域平均を上回る結果となり、輪作するには欠かせない作物となりました。

これからは研究会で得た知識や技術を更に活かし、新規作物を導入してもそれに順応できる土作りやほ場整備を行っていき、6年6作の輪作体系を目指し更なる技術の研鑽を積んで行きたいと考えています。